自己目的化尺度の作成の試み(2)

—適応性との関連から—

○金政祐司

(大阪人間科学大学人間科学部)

キーワード: 自己目的化、精神的健康、主観的幸福感

Development of the Recursive Fixation on Self Scale

Yuji KANEMASA

(Faculty of Human Sciences, Osaka University of Human Sciences)

Key words: Recursive Fixation on Self, mental health, subjective well-being

目 的

あらゆる事柄が選択の対象と化し、また、その選択に伴うリスクを個人が肯う現代においては自己が目的化することが指摘されている (たとえば、ジグムント・バウマン, 2008; 鈴木, 2005)。選択の主体である自己が選択対象化すれば、自己に注視、拘泥することで、選択決定は遅延され、私は何をしたのか、私は何を求めているのか、を再帰的に自己に問いかけていくことになる。

このような自己目的化に関して、金政(2010)は、以下の 4 つの側面が見受けられるのではないかと考察し、その測定尺度の作成を試みている (Table 1)。自己目的化の 4 つの側面とは、1. 自己固執化—「ほんとうの私」、「自分らしさ」、「自己実現」を追い求め、自分に拘る、自己の唯一無二性を強調する側面、2. 自己高揚化—自己に対して過度に焦点化するゆえ、自身の能力を過大に評価し、現在の自分自身の評価を不当に感じる、もしくは社会的承認を過度に希求する側面、3. 自己希薄化—自己に注視し過ぎるがゆえに自己を希薄化・不在化させてしまい、自身が誰からも必要とされていないような感覚や他者が自分を理解してくれていないという焦燥感を募らせる側面、4. 自己利益希求化—自己への過度の焦点化が自身の利得への敏感さを促し、自分のやりたいことしかしたくない、報われるかどうか不明確な努力は回避したいといった傾向を示す側面である。

また、金政(2010)では、自己高揚化および自己利益希求化は、自己愛の注目・賞賛欲求ならびに他者軽視傾向と正の関連を示し、自己希薄化は、自尊心や優越感・有能感とは負の関連を、また、注目・賞賛欲求や他者軽視傾向とは正の関連を示すことから、それら側面の不適応性に触れている。本研究では、上記の研究結果を踏まえ、より直接的な適応性の指標である精神的健康ならびに主観的幸福感を用い、それらと自己目的化との関連について検討することを目的とする。

方 法

回答者：近畿圏の 4 つの大学で心理学関係の講義を受講している学生を対象に調査を実施し、男性 164 名、女性 183 名、合計 347 名 (平均年齢 19.64 歳; $SD=1.45$) の有効回答を得た。調

査時期：2009 年 6 月～2009 年の 10 月。調査内容：1. 自己目的化尺度—金政(2010)で作成された自己目的化の 4 側面を測定する尺度<42 項目、5 件法>、2. GHQ12 (中川・大坊, 1996) —精神的健康状態を測定するための尺度。その得点方法は、中川・大坊(1996)に従った<12 項目、得点範囲: 0-12 点>、3. 主観的幸福感(伊藤・相良・池田・川浦, 2003)<12 項目、4 件法>。他の尺度の測定も行ったがそれらについては報告しない。

結 果 と 考 察

自己目的化の 4 側面と精神的健康ならびに主観的幸福感との関連について検討を行うため、それらに関して、相関分析を行った。なお、自己高揚化と自己利益希求化に関しては、女性よりも男性の方がその得点が高かったため(金政, 2010)、その際、性別の統制を行った (Table 2)。その結果、自己固執化は、主観的幸福感とは有意な正の関連を、精神的健康状態の悪さとは有意な負の相関を示した。反対に、自己希薄化は、主観的幸福感と有意な負の関連を、精神的健康状態の悪さとは有意な正の相関を示しており、また、自己高揚化と自己利益希求化は、主観的幸福感と有意な負の相関を示した。

精神的健康ならびに主観的幸福感といったより直接的な適応性指標との関連においても、自己高揚化、自己利益希求化ならびに自己希薄化については、その不適応さを示唆する結果が得られた。特に、自己希薄化については、精神的健康と主観的幸福感、双方の指標との間に関連が見られ、その不適応さを伺わせることから、今後はその抑制要因について探る必要性があるだろう。

引用文献

◆ジグムント・バウマン著 沢井敦・菅野博史・鈴木智之(訳) (2008). 個人化社会 青弓社◆伊藤裕子・相良順子・池田政子・川浦康至 (2003). 主観的幸福感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討 心理学研究 第 74 巻 第 3 号 276-281.◆金政祐司 (2010). 自己目的化尺度の作成の試み(1)—自尊心、自己愛、他者軽視傾向との関連から— 日本グループ・ダイナミックス学会第 57 回大会発表論文集 印刷中◆中川泰彬・大坊郁夫 1996 日本語 GHQ 精神的健康調査票手引き。日本語 GHQ の短縮版: 解説(pp.117-147)。日本文化科学社◆鈴木謙介 (2005). カルニヴァル化する社会 講談社現代新書

Table 2 自己目的化尺度と適応性指標との偏相関関係 (性別を統制)

自己目的化尺度	$M(SD)$	適応性指標	
		主観的幸福感	精神的健康
自己目的化尺度		2.71 (0.47)	4.63 (3.26)
自己固執化	3.63 (0.65)	.38 ***	-.14 **
自己希薄化	3.11 (0.73)	-.54 ***	.47 ***
自己高揚化	2.30 (0.67)	-.12 *	.09
自己利益希求化	3.02 (0.66)	-.25 ***	.05

Note. $N=334$. 性別を統制した。

*** $p<.001$; ** $p<.01$; * $p<.05$

Table 1 自己目的化尺度の項目例と α 係数

自己目的化尺度の4側面	項目例	α 係数
自己固執化	私には、自分にもわからない何かしらの可能性があると思う 何かはわからないが、私には私にしかできないことがあると思う 私は、いつか自分のなりたい人間になれると思う	.88
自己希薄化	私は誰からも必要とされていないのではないかと思うことがある 自分が今にも消えてしまいそうになることがある 私は時々自分が透明な存在なのではないかと不安になる	.84
自己高揚化	私の才能を理解できる人はほんの一握りの人たちだと思う 他の人たちはもっと私のことを評価すべきだと思う 一生懸命努力をするというのは、能力のない人がすることだと思う	.80
自己利益希求化	私は自分のやりたいことしかやりたくない 報われるかどうかわからない努力はしたくない 自分のやりたくないことはやらなくてもいいと思う	.74